

決算説明会資料

第48期(平成23年4月～平成24年3月)の業績の概況	1	～	5
第49期通期(平成24年4月～平成25年3月)の業績見通し	6	～	10

平成24年5月

株式会社 **ナガワ**

平成23年度の(連結)業績概況

1. 全般

住宅投資は、期前半にかけて政策支援(住宅エコポイント)により堅調に推移したものの、終了後は反動減となった。
 公共投資は、応急仮設住宅など被災地の復旧・復興工事が寄与し大幅増加となった。
 民間設備投資は、震災後の停滞から持ち直しつつあるが、回復は緩慢であった。
 建設経済研究所の試算によると、平成23年度の名目建設投資は43.8兆円と前年度比6.6%の伸びと推計されている。

2. 当社の主な取り組み

- (1) 被災地の復興支援 - 応急仮設住宅建設
- (2) プレハブ、システム建築の取り込み - 大口物件の直接受注
- (3) レンタル単価の値戻しと稼働率向上
- (4) 海外展開 - 海外準備室を設置、タイ・インドネシアに駐在員派遣
- (5) グループ企業業務効率化

図-1 連結売上高の推移

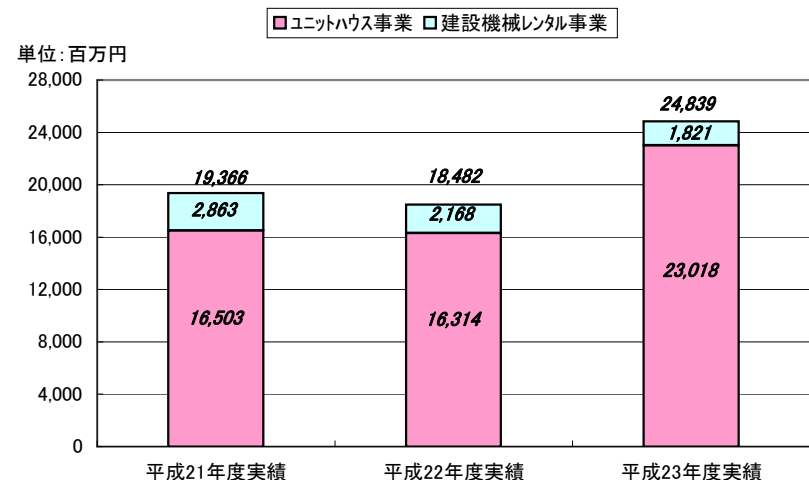
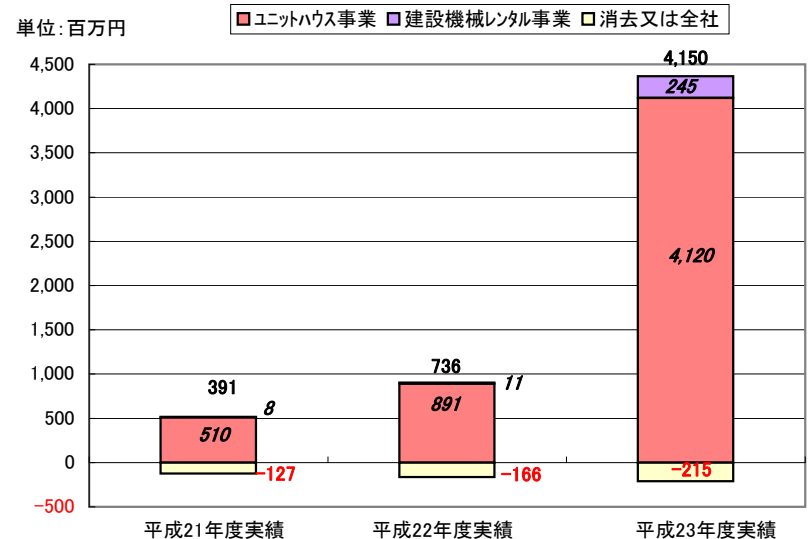


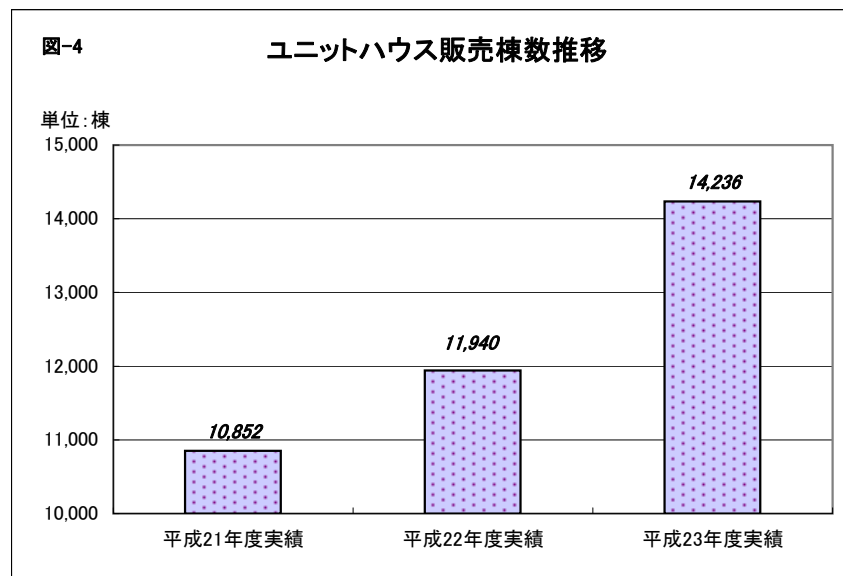
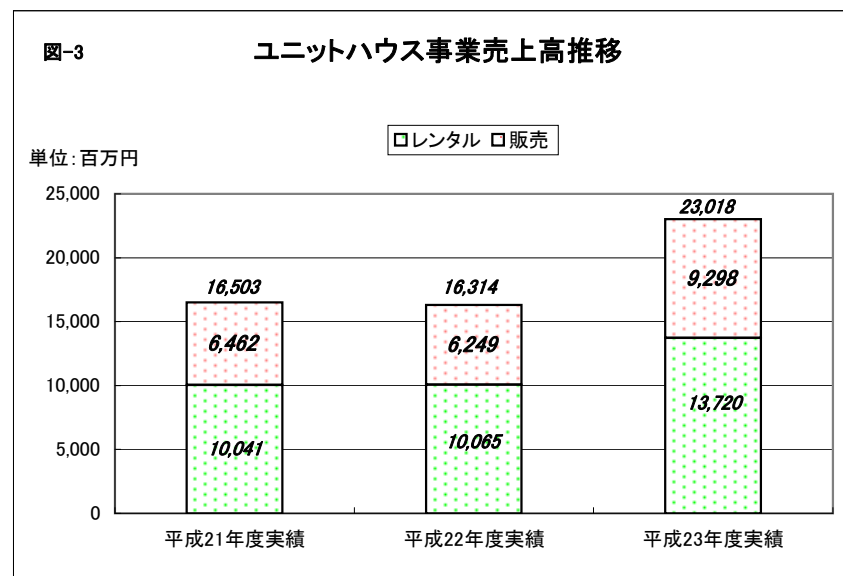
図-2 連結営業利益の推移



3.ユニットハウス事業

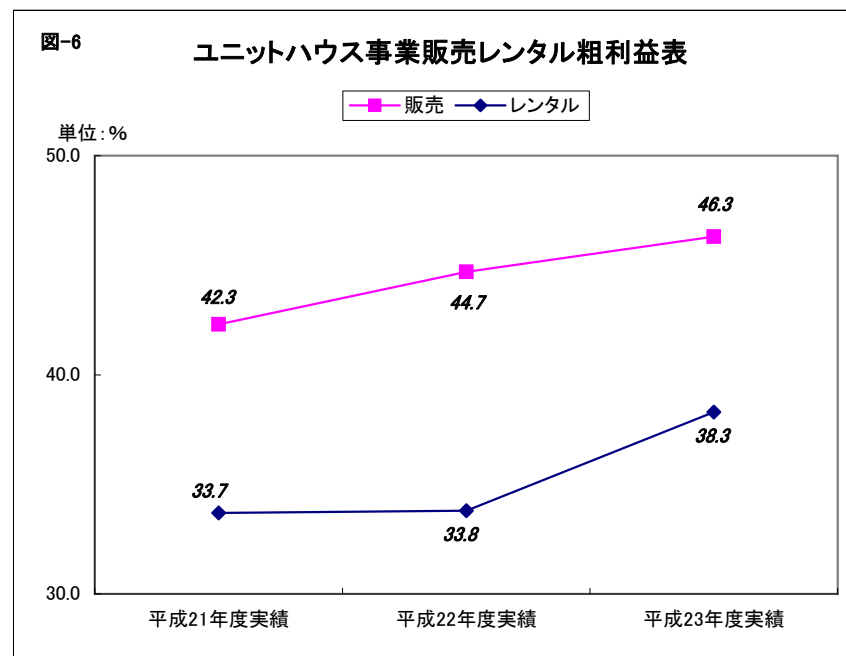
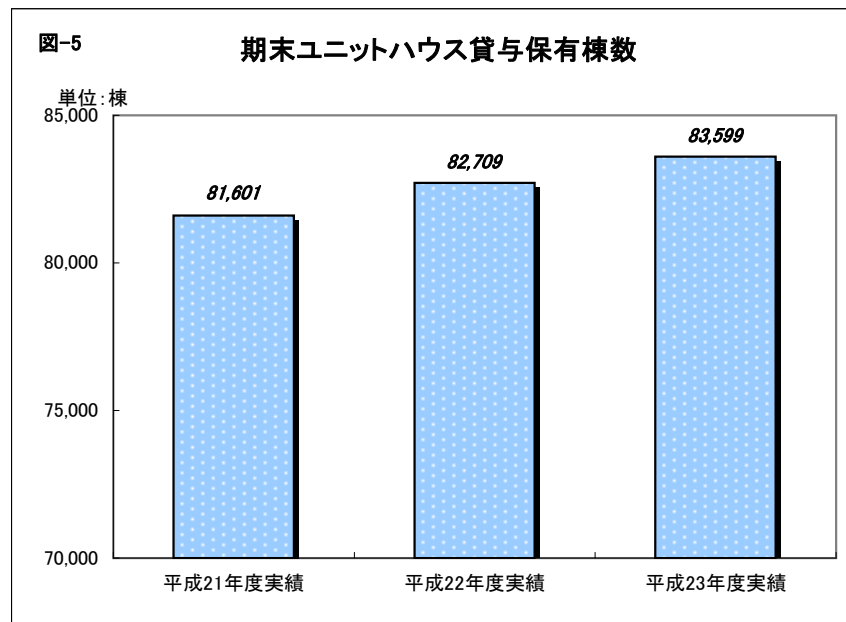
(1) 販売

- ① 大口物件の直接受注推進(プレハブ建築・システム建築)
- ② 展示場営業強化
- ③ Web事業推進(品揃え充実他)
- ④ 応急仮設住宅建設及び関連工事



(1) レンタル

- ① 値戻しの継続と稼働率向上等実施
- ② シェア拡大策 - 備品・付帯工事サービスと一体受注
- ③ 応急仮設住宅建設及び関連工事



4.建設機械レンタル事業

(1) 業界動向

北海道南部の建設市場は、引続き公共工事が削減される中、民間設備投資も低調に推移した。

(2) 当社の取り組み

- ①機種別採算管理徹底
- ②置きレンタル解消
- ③レンタル単価値戻し推進

図-7 建設機械レンタル事業売上高推移

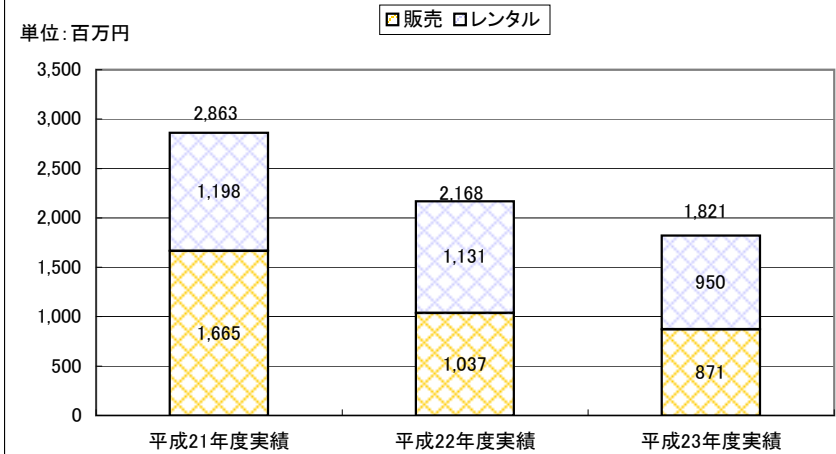
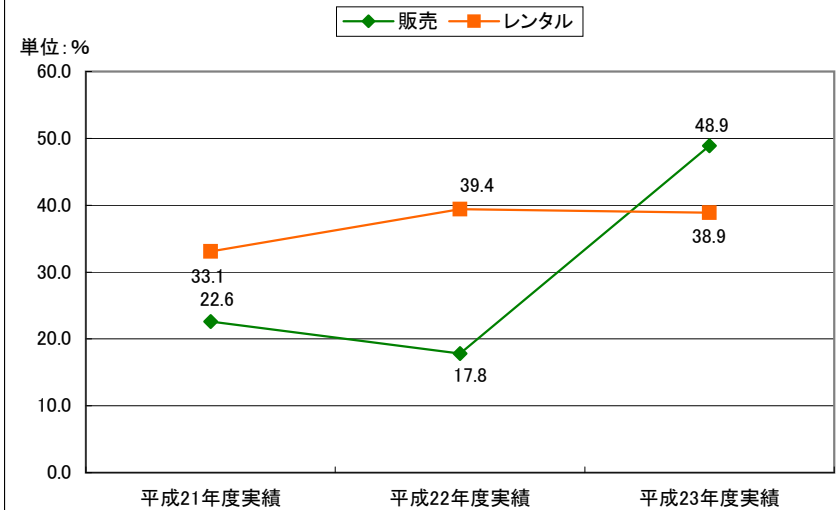


図-8 建設機械レンタル事業販売レンタル粗利益



5. 設備投資

(1) 貸与ハウス

期前半は応急仮設住宅建設向けに生産力をとられたため当初予定を下回った

(2) 貸与機械

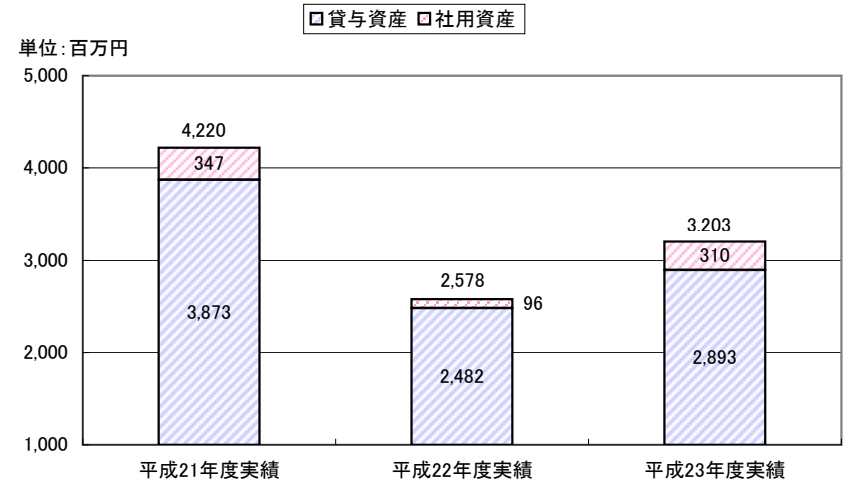
大型建機の更新投資を実施

(3) 社用資産

仙台営業所兼展示場用地取得

図-9

連結設備投資の推移

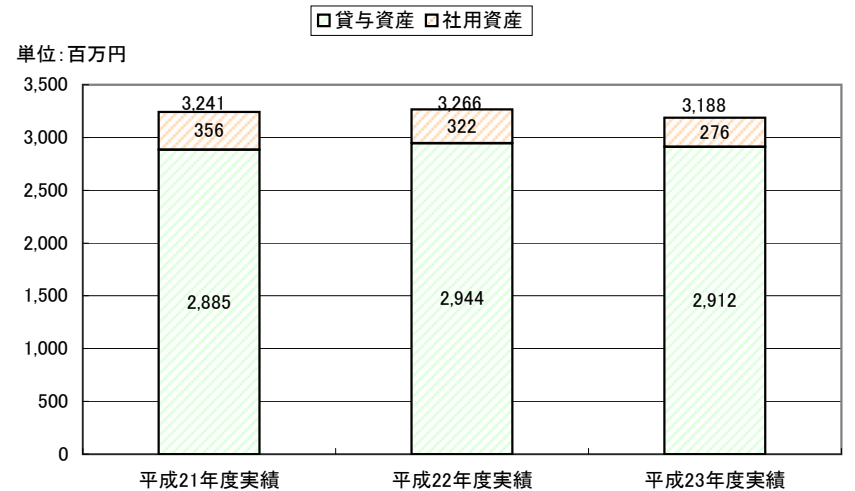


6. 減価償却費

貸与資産、社用資産とも、稼働率向上により設備投資が当初予定を下回って推移したことから前年より若干減少した。

図-10

連結減価償却費の推移



今期の見通し

1. 全般

住宅投資は、年明けから前年同月比プラスで推移。被災3県の復興も加わり堅調に推移する見通し。

公共投資は、被災地インフラ復興工事の本格化が見込まれる上、他の地域の執行留保が解除された効果も現れ、緩やかな回復が期待される。

民間設備投資は、震災や円高による拠点の海外移転が一巡し、緩やかな回復基調の継続が見込まれる。

建設経済研究所の試算によると、平成24年度の名目建設投資は44.8兆円と前年度比2.3%増と予測されている。

2. 当社の主な取り組み

- (1) プレハブ建築・システム建築の展開強化
- (2) 復興需要の取り込み
- (3) レンタルシェアと値戻し
- (4) 海外展開 - インドネシア現法化、タイも準備中
- (5) 業務効率推進

図-11

連結売上高の推移

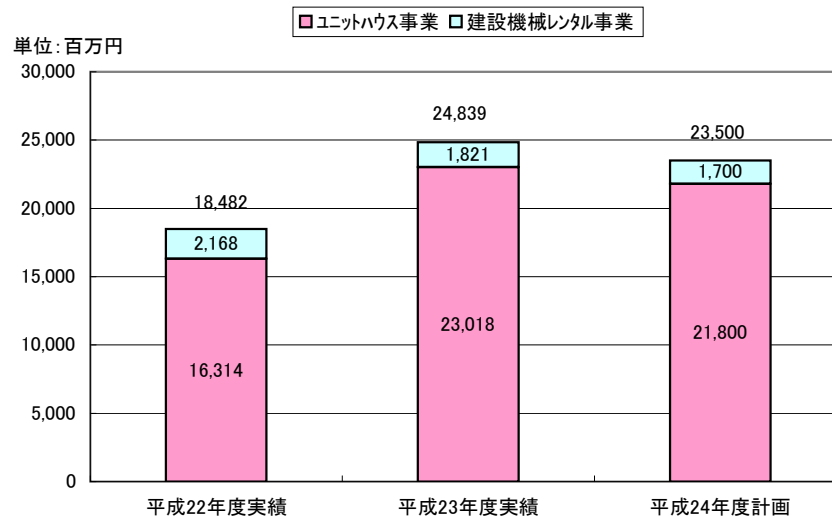
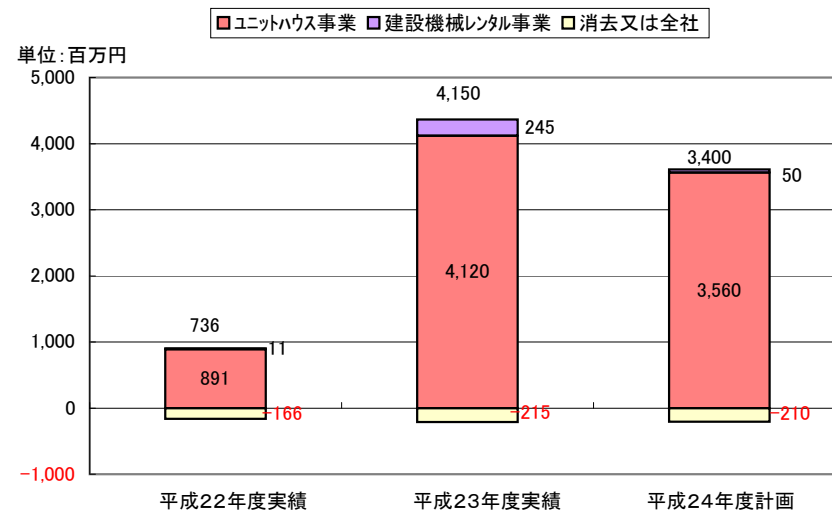


図-12

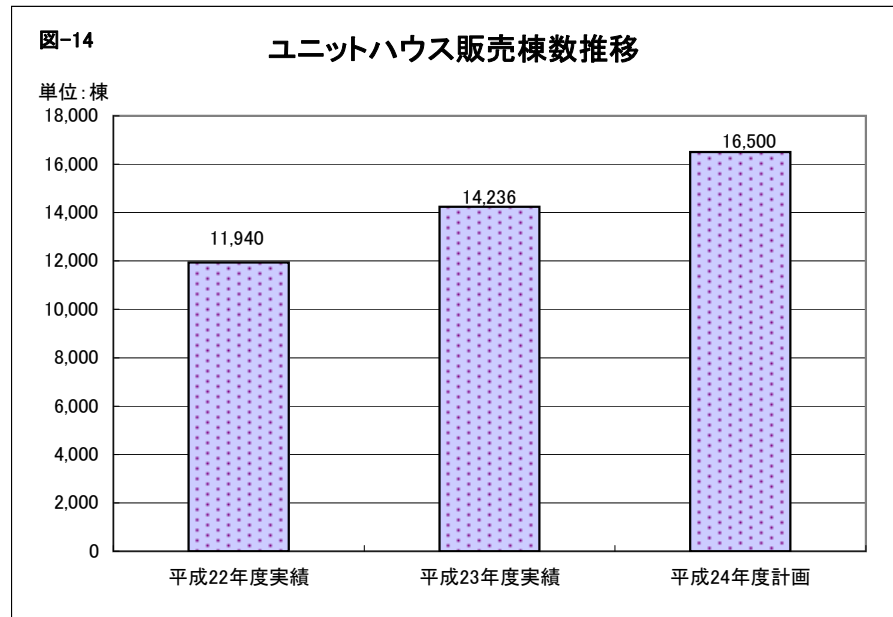
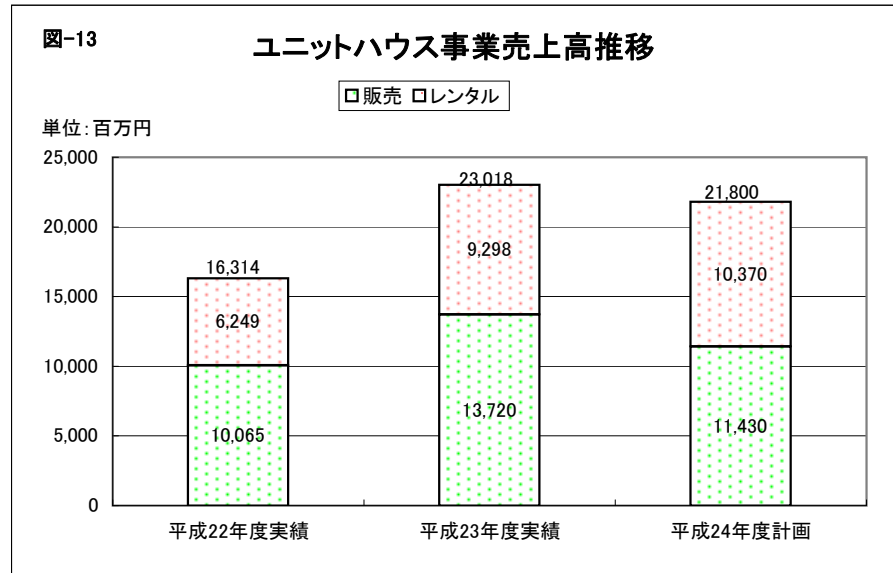
連結営業利益の推移



3.ユニットハウス事業

(1) 販売

- ① 大口物件の受注推進(プレハブ建築・システム建築)
- ② 被災地復興支援
- ③ 展示場営業推進(中古販売促進)



(2) レンタル

- ① 備品・付帯工事サービス強化によるシェア拡大と値戻し継続
- ② 復興地支援
- ③ Web上でのレンタル営業模索

図-15 ユニットハウス期末貸与保有棟数

単位:棟

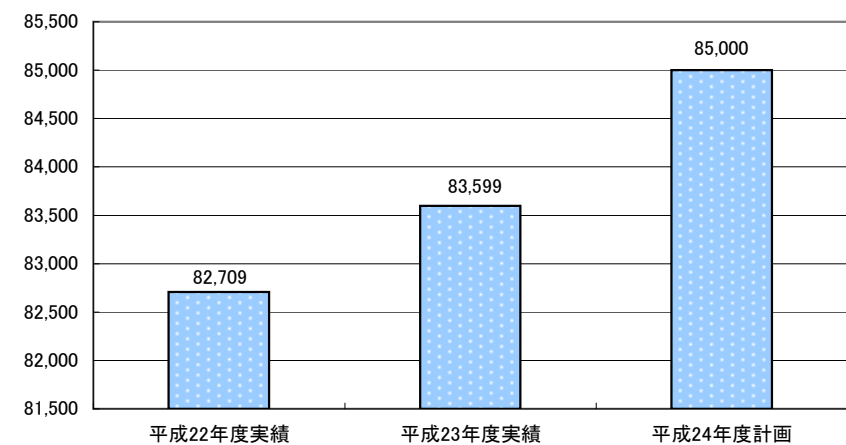
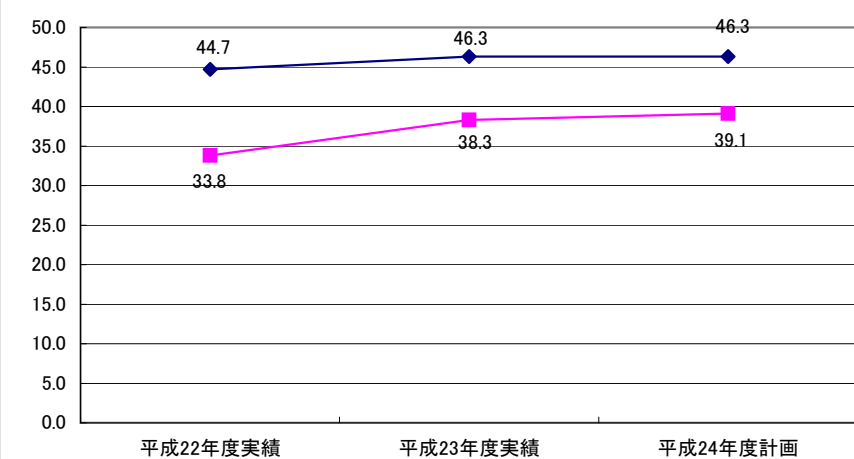


図-16 ユニットハウス事業販売レンタル粗利益率推移

単位: %



4.建設機械レンタル事業

(1) 業界動向

北海道南部の建設市場は、公共・民間とも低調で、長期停滞が継続する。

(2) 当社の取り組み

- ① センターの集約によるコストダウンとITを駆使した業務効率化
- ② 機械整備の内製化と機械整備事業の立ち上げ

図-17 建設機械レンタル事業売上高推移

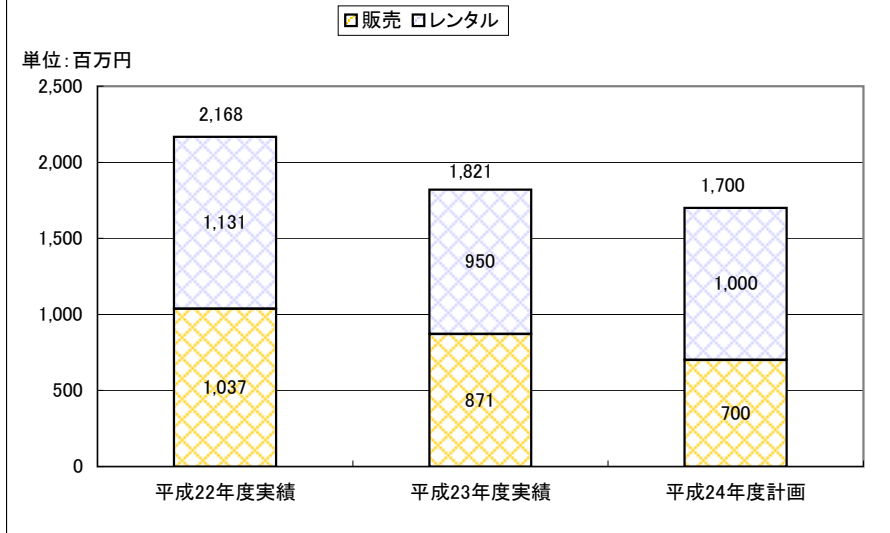
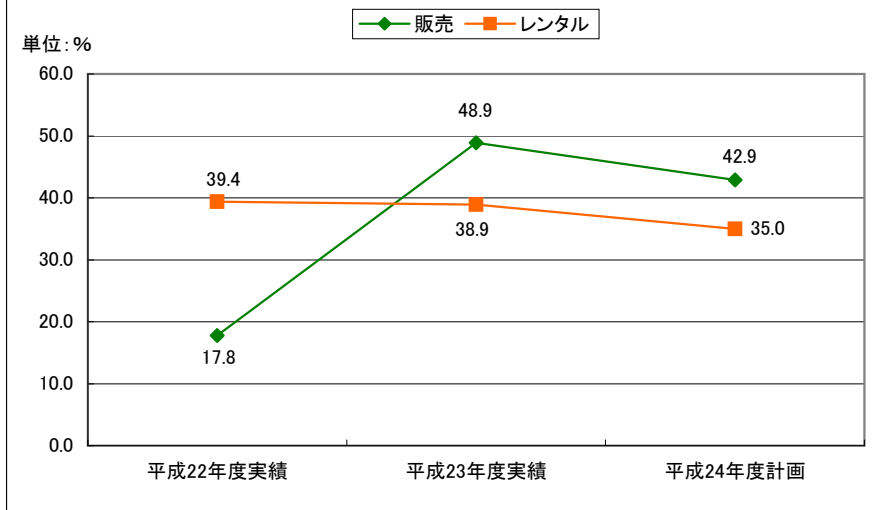


図-18 建設機械レンタル事業販売・レンタル粗利益率推移



5.設備投資

(1) 貸与ハウス

中古販売による更新投資が増大

(2) 貸与機械

大型投資一巡

(3) 社用資産

① ロボット導入(3工場同時)

② 仙台工場、京都工場の建屋更新投資

図-19

設備投資の推移

□貸与資産 □社用資産

単位:百万円

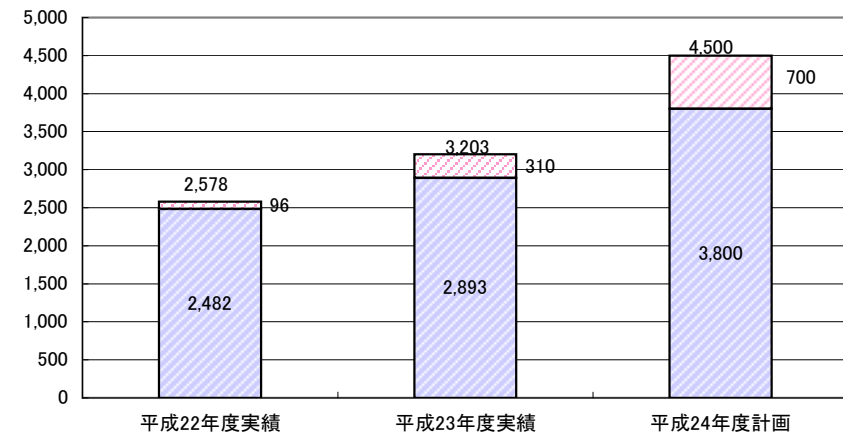


図-20

減価償却費の推移

□貸与資産 □社用資産

単位:百万円

